

令和3年度

第1回大阪市被保護精神障がい者等地域移行推進検討会議  
(個別事例検討会議) 議事要旨

1 開催日時：令和3年6月25日(金) 10:00～12:00

2 開催場所：大阪市役所6階 福祉システム内会議室

3 出席者(50音順)：

芦田委員、栄委員

(事務局)

大里係長(司会)、宇城係長、瀬川、半田、小林

4 議題

(1) 本事業の実績報告(R2.4-R3.6)

(2) 個別支援の検討

(3) その他

5 議事内容

○実績報告について

(大里)

昨年度実績資料に基づいて報告。

保護課での情報集約の件数が3月末で189名から232名となった。

候補者・対象者への支援について、実施機関や病院や救護施設からの聞き取りを行った。コロナ禍のため、電話での聞き取りを増やし、実施機関に確認したものも件数に含めた。

7月20日に区役所CW向け研修で地域移行支援事業について、全体で共有したいと思っている。また、7月27日には、大阪府、大阪市、堺市の地域移行担当者会議に参加する。

(栄)

地域移行支援事業は3か年と聞いており、今年が2年目、来年度で3年目と思うが、この事業は何をするのか確認する必要がある。昨年のも全体会でも提案されていた救護施設のDVD化などの成果物を作らないといけないのでは。

(大里)

事業の検証するうえでも3年間で何をするかは重要となる。

(栄)

病院に訪問している調査室の事業と、7月の研修に来る職員はリンクする  
のか？

(大里)

あくまで研修はCW向けなので、調査室とは直接関係しない。

(栄)

長期入院の方に調査室が訪問される際に退院意向を本人が退院したくないと言えば、1年後まで待たないといけない。本人に退院したいか入院していただきたいを聞くだけでなく、地域に出たら何がしたいかという聞き方の方法次第で変わってくると思う。

(大里)

調査室が訪問してせっかく良い結果があってもCWに共有できていない。

(芦田)

調査室の訪問は年1回の訪問でタイムラグがある。ケースがせっかく退院意欲があっても伝わらないのではないか？

(大里)

現場のCWにこの情報が伝わるまで時間がかかる。

(芦田)

調査室が聞きに行つてCWが行くのがその1年後になるとか翌年度になるとか聞いたが、それこそが阻害要因ではないか。

(瀬川)

現状では4半期ごとに集計されたものを区役所に通知し、区の中で周知しており、ケースワーカーに伝わるまでに時間を要している。

(栄)

システム構築を考えないといけないのではないか。本人の阻害要因より、タイムラグがありすぎて進まない。本人が退院したいと思っても退院できないシステム的な阻害要因があると思う。

(宇城)

地域移行支援について、医療担当のマニュアルにも記載しておらず不明瞭のままの状態であるので、実際にやらなければならないことをマニュアルに明記し区役所向け研修で周知していこうと考えている。

(芦田)

マニュアルを作成してもCWが忙しくて病院に行く時間を割かれても実際進まないのではないか。長期入院専門CWを作るべきでは。

(大里)

区によっては入院入所を集約して担当するCWもある。

(宇城)

医療扶助審議会結果を区へ返す際、結果だけを送っていたが、支援のフローチャートを示す書類をつけることでこれから何をしなければならないか

わかるようにしていきたい。

(大里)

支援員の導入により情報が集まるようになった。区からの問い合わせの際にも既に情報収集済みなので、迅速に対応できるようになったことは、事業をやってよくなったことだと考えている。

(栄)

7月の研修は有意義である。全体像を説明してこの事業が横串しになっていければよいのでは。

研修の内容や結果について、全体会で報告を望む。

(芦田)

退院の阻害要因は大阪市職員側の環境による要因もある。それをあぶりだす事も有意義である。

#### ○個別支援の検討

・ 1-4

(半田)

・ 入り口の門が閉まっていることが条件だったので、ホーリーホームと青垣園の施設のパンフレットを送付した。

(栄)

・ パンフレット送った後、実際にパンフレットを見たか確認して反応を確認してほしい。

(芦田)

・ 閉鎖病棟で生活されているから本人があまり気にしないのではないかと  
思うが、実際に施設に行った際に、患者さんとかが映らないように写真を  
撮ってきてもらい、本人に I P A D などで見ることでイメージが付き  
やすいと思う。

・ 2-1

(半田)

・ 実際に施設に行って、担当者だと間違われる。実際に C W と会ったらこ  
の方が担当者だと紹介している。区の C W は 1 年ごとに担当が変わるこ  
ともある。

(栄)

・ 退院や入所手続きは C W しかできない。C W が事業を進めていくうえで  
大事である。

・ 2-2

(栄)

- ・ 4カ月経過しているのに、連絡が取れていない。全体会までに経過が報告できるように。

(芦田)

- ・ この方だけでなく、日用品の金額（救護施設ならいくら等）を調べて本人に伝えることで不安がなくなるのではないか。

(半田)

- ・ 養護老人ホームは3千円位、病院は2万円位、救護施設は5千円～1万5千円位の幅がある。

(小林)

- ・ 救護施設は小遣いが少ない場合、内職をすればお小遣いが貰える。

・ 2-3

(芦田)

- ・ コロナ禍で一度病院を出たら戻ってこないでという病院があるので気をつけてほしい。

・ 2-4

(小林)

- ・ 養護老人ホームのパンフレットを送付した。

・ 2-5

(芦田)

- ・ 審議会の答申で家族と連携しとなっているが、家族なしとなっている。全体会までに家族の状況を調べておいてください。

(栄)

- ・ この方もパンフレットを見たか確認をしておいてください。

(栄)

- ・ 事例を聞いていると退院のタイミングの人もある。会える人は会っていききたい。1年すぐにたってしまう。9月の個別会議で報告してもらいたい。

以上